

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐山高等学校

学校番号

4

## I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人間を育成するために、次の教育目標を定めてその実践を期する。 (1) 「躍進岐山」の意気と誇りをもて (2) 全力を尽くして学業に励め (3) 礼儀正しく思いやりのある人となれ (4) 強固な心身をつくれ
----------	--

2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・予復習や宿題の不徹底等、学習の消化不良と定着不足により、学習に意欲的に取り組めない生徒が存在する。 ・自ら発展・応用的な学習に取り組む姿勢が弱い。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科の授業や探究の時間等を通して「知識の獲得」と「知恵への昇華」を図る。 ◇科学の視点と言語活動を重視した授業を展開する。 ◇岐山高校を認識してもらうため、広報活動を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部及び学年会、教科会 ・理数・探究部、進路指導部	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) より良い学習習慣の確立と基礎・基本の定着を目指す。 (2) 学習の到達度に応じた指導を組織的に行い、応用力・実践力を育成して学力の伸長を目指す。 (3) 教科授業と探究の時間等の連携を図り、生きて働く「知識・技能」の習得を目指す。 (4) 科学の視点と言語活動を重視した授業を展開するため、授業研究や教材開発を行う。 (5) 全教科で取組についての分析や課題、方策の検討会を行う。 (6) 中学生や保護者向けの高校説明会や理数科一日入学等を適切に実施して岐山高校の正しい認識を広げる。	(1) 予習や課題、朝テストの事後指導の実施状況により判断する。提出状況や事後指導は100%を目指す。 (2) 生徒による授業評価並びに家庭学習時間の調査より評価する。授業に対するアンケートでは5段階評価で4.0以上を目指す。 (3) 全教科で年2回、研究授業と研究会を実施し、研究実践の蓄積を行う。 (4) アンケート等を利用して昨年との比較をする。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定めた。 ・各教科で「科学の視点(根拠に基づいた思考や論理性)と言語活動を重視した授業の構築」をテーマに授業研究と実践を通して、教科指導力の向上を目指した。 ・PTA向けに学校見学会、中学生向けに学校見学会を実施した。	・指導体制が機能し、評価基準を確認しながら取り組めたか。 ・職員の共通理解の下、組織的に取り組めたか。 ・参加者数、参加者からのアンケートによる評価。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
11 成果・課題	○各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定め、全校体制で取り組むことができた。 ○PTA向け学校説明会4校(H30年度3校)、中学校での高校説明会5校、中学生向け高校見学会(参加者数1,457名、H30年度1,354名)を実施し、アンケート結果からは本校に対する好印象を得ることができた。 ▲授業アンケートより、課題に取り組む姿勢は徐々に向上が見られるものの、自ら学びに向かう姿までは高められていない。	
	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	

## 12 来年度に向けての改善方策案

- 学力不振者に対する指導。各教科、学年会で生徒の状況について情報を共有し、HR担任、教科担任で働きかけをして、生徒一人一人に学習課題をもたせ学力の伸長を図る。特に1年生は、初期指導の内容を今一度確認し、順調に授業に取り組めているか気を配る。
- 理数・探究部の取組と連携しながら、生徒一人一人のキャリア意識を涵養し、興味・関心の高まりや自己の将来像への意識の高まりから、学習に対する目的意識・学習意欲へ繋げていく手立てに取り組む。
- 外部連携事業や中学校への説明会等、本校のPRとなる活動に組織的に取り組むことや、校内の教育活動が円滑で効果的に実施できるよう他の分掌・学年等とも連携しながら取り組んでいきたい。

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・「人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」が生徒が 4.4、保護者が 4.2、「社会のルールにふさわしい服装・頭髪等の指導を行っている」も生徒が 4.4、保護者が 4.3 と高く評価されている。</p> <p>・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」については、生徒が 4.5、保護者は 4.2 と高く評価されている。しかし、保護者については分からないと回答する割合が 2 割を超えている。個人情報への配慮をしつつ保護者に対して情報を発信していく工夫を考えたい。</p>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇全職員の共通理解と連携に基づき、生徒一人一人を正しく理解し、基本的生活態度を育成します。</p> <p>◇支援を必要とする生徒に対して早期発見、早期対応に努め、組織的に対応します。</p>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・学年会や他分掌との情報共有と連携指導</p> <p>・ケース会議、特別支援会議等の専門家を交えた教育相談体制</p>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 週初めや集会時に実施する身だしなみ指導、遅刻指導、情報モラル指導、交通指導等を通じて、全職員の共通理解のもと生活規律を整えます。	(1) 生徒の身だしなみが整い、基本的生活態度が身についたか。		
(2) 予防的・開発的生徒指導に努め、MSL 活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動を支援します。	(2) 生徒・保護者に対して啓発活動が活発になされ、積極的な生徒指導ができたか。		
(3) 生徒理解連絡会、ケース会議、特別支援会議、学校いじめ防止対策委員会、専門家を交えた校内研修等で、支援を必要としている生徒について職員の共通理解を深め、支援方針を検証します。	(3) 支援を必要とする生徒について、職員間で論理的に分析を行い、分析を踏まえた対応ができたか。		
(4) 支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーター、他の関係機関が連携して校内支援体制の充実を図り、組織的に対応します。	(4) 生徒理解のための情報連携がなされ、未然防止、早期発見、早期対応がなされたか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<p>・毎月曜日に実施する身嗜み指導、ネットスマホ安全利用宣言による保護者との連携指導。</p> <p>・予防的・開発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動の支援。</p> <p>・生徒連絡会議、ケース会議、特別支援会議等、専門家を交えた研修会を通し情報連携と連携指導</p> <p>・支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーターが関係機関と連携して校内支援体制の充実を図る。</p>	<p>①生徒の身だしなみをはじめとして生活規律が整ったか</p> <p>②生徒・保護者に対して広く啓発活動ができたか</p> <p>③支援を必要とする生徒に軸足を置いた対応ができたか</p> <p>④生徒理解のための情報連携がなされ未然防止・早期対応ができたか</p>	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>	
11 成果課題	<p>○規範意識や身だしなみ意識など、人権にも配慮しつつ醸成が図られている。内面的成長にも意識した指導がされ、いじめ重大事案は今のところない。</p> <p>○支援の必要な生徒に対応するため、カウンセリングの回数を増やしたり、特別支援会議等で合理的配慮を提供したりと教育相談体制が整備されてきた。</p> <p>▲早期支援の必要な生徒が常に存在していることを踏まえて、特に発達障害等の知識を深めつつ、予防的な対応の充実を今後も心掛けていく必要がある。</p>		総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 次年度に向けての改善方策案			
・保護者への情報発信と、早期支援の必要な生徒に対する職員の連携対応を今後も継続する。			

2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度から変更になる入試制度について保護者の関心も高く問い合わせも多いため、生徒、保護者への対応が重要である。</li> <li>・進研模試の1年生の偏差値50未満の生徒への対応が今後大切になる。2年生は教科バランスがいかにとれるかが今後の課題である。</li> <li>・進路希望調査の家庭学習時間は1年生が1.9時間(前年比-0.5)、2年生が1.9時間(前年比-0.6)、3年生が2.9時間(前年比+0.5)である。平日3時間を目指させたい。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育を推進し、自己理解の上、自己実現達成への支援をする ◇具体的な進路設計と計画の実行への支援をする		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習との内容を含めた理数探究部との連携</li> <li>・学年会、教科会との連携</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)探究活動の中に、進路研究や学問研究を積極的に取り入れます。また、大学との連携をすすめ、学習意欲を向上させるとともに、大学における学問及び研究活動に滑らかな接続を図ります。 (2)生徒個々の進路や入試形態に応じて個別指導を充実するとともに、期間を限定した柔軟な時間割運用によって効果的な学力向上を図ります。 (3)全学年とも土曜講座や補習など、各自が自己分析によって意欲や理解度に応じた学習活動ができる機会を提供します。 (4)各学年で適切な校外模試を実施することで、自分の現在の学力を全国レベルで把握し進路選択に役立てます。 (5)スタディーサポート(年1回)、進路希望調査(年2回)を実施して生徒の学習状況などの実態を把握し家庭学習の充実や進路決定の支援をします。 (6)各学年で適切な時期に学年集会や進路LHRを実施することで、学年ごとの目標を確認し、生徒の進路意欲の高揚を図ります。	(1)各行事の有効性は、生徒の講座や講演会に対するアンケートにより評価する。 (2)任意参加の特編授業や諸論文指導の生徒の取り組み状況、家庭学習期間や登校人数により評価する。 (3)申込人数や出席状況、また通常授業における参加者の意欲変化等の観察により評価する。 (4)模試事前学習において各自が設定した目標値を上回ることを目指す。学年平均偏差値で評価する。 (5)回答内容や家庭学習時間の変化や比較により評価する。 (6)進路希望調査内の進路に関する回答、スタディーサポートの結果を分析することで評価する。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講座、夏期補習、放課後補習を実施。夏期補習では理科・地歴に加え、英数国を実施した。</li> <li>・校外模試、進路希望調査を実施した。</li> <li>・大学入試を早期に意識させるため、大学入試研究講座、岐阜大学教育学部出前説明会等を実施。</li> <li>・2年生を中心として、新テストに向けた情報提供及び生徒・保護者への説明会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の取組状況はどうであるか。</li> <li>・学力の伸長が見られるか。</li> <li>・受験生としての意識が高まる内容であるか。</li> <li>・生徒、保護者に理解できる内容であったか。</li> </ul>	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D	
11 成果課題	○模試に向けた意識付けの教材を提供し模試に備えることができた。振り返りを含めて模試の活用方法について考えていきたい。 ○新入試への対応は比較的丁寧に行われている。 ▲模試分析が十分でなく、情報提供ができるまで高められていない。 ▲土曜講座の受講者は1年生は前年比68% 2年生前年比35% 3年生前年比100.0%であった。講座の内容についても検討する必要がある。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外模試の結果分析から、学年会や教科会で弱点分野等の課題を共有し、学力上位者の教科、偏差値50未満の生徒への学力教科等を行う。</li> <li>・ポートフォリオ、キャリアパスポートを含め、入試制度変更に対応できる体制を整備する。</li> </ul>			

2 評価する領域・分野	◇特別活動部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の回答では、学校行事・部活動・生徒会活動に対する評価は4以上だが、関わり方によってEの割合に差が出ると思われる。</li> <li>・保護者の回答では、ボランティア活動に対する評価やや低く、Eの割合が高くなる傾向があり、広報にも限界がありそうである。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒が主体となって学校行事の企画・運営にあたります。</li> <li>◇進学校として望ましい部活動のあり方を推進します。</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と、クラス役員によるクラスとの連携</li> <li>・特別活動部と他の分掌、各学年会、各部顧問との連携</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒は、自ら考え行動できる「学校のリーダー」となれるように努めます。</li> <li>(2) 生徒は、各行事が円滑に実施できるように、計画的に準備し運営を行います。</li> <li>(3) 生徒は、各行事が終了後、速やかに見直しを行い、来年度の改善につなげられるようにします。</li> <li>(4) 顧問は、定められた時間内で最大限の効果が上がるように活動を計画します。</li> <li>(5) 顧問は、担任とともに家庭との連携を密にし生徒が有意義な高校生活を送れるように支援します。</li> <li>(6) 顧問は、担任や教科担任と連絡を取りながら、生徒の生活状況を把握し、学習活動にきちんと取り組めるように支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒自らが、委員会やホームルーム等の活動に主体的に取り組めたか。</li> <li>(2) 生徒自らが、各行事の企画から運営までを計画的に行えたか。</li> <li>(3) 生徒自らが、評価すべき点や改善すべき点を見いだせたか。</li> <li>(4) 活動時間を厳守し、終了後は速やかに帰宅するように指導する。</li> <li>(5) 保護者の理解・協力のもとで活動を行い、意見や要望には、誠実に対応する。</li> <li>(6) 部活動と学習活動の両立ができるように指導する。</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部で役割分担を明確にして行事の準備にあたり、創立60周年の年に恥じない充実した内容の行事を成功させることができた。また、終了後ただちに反省を行い、来年度に向けての課題を明らかにした。</li> <li>・生徒会は募金活動のほか昨年度末に東長良中学校での勉強会を企画し、実施した。部活動や委員会でもボランティア活動に取り組んでいる。</li> <li>・放課後の活動は午後7時完全下校と定め、各部署での徹底をはかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の運営には柔軟に対応し、取り組む中で改善点を明らかにできたか。</li> <li>・活動に関して広く広報を行い、生徒・保護者に認識を深めてもらうことができたか。</li> <li>・部活動と学習活動の両立に全校体制で取り組むことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続して生徒会活動に取り組んでくれる生徒が増え、行事ごとに反省をしながら次に生かしていく体制ができている。新メンバーが加わっても、これまでの積み重ねの上に新しいことを計画することができるようになっていく。</li> <li>▲部活動ガイドラインの趣旨に沿った活動が求められるようになり、より良いあり方を模索した1年であったが、その反省をふまえて来年度の部活動のあり方を考えていきたい。</li> <li>▲校内での募金活動の結果をメール配信し、広報することができた。年度末の中学校での勉強会についても継続して取り組み、その結果を広報できるようにしたい。</li> </ul>		総合評価
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を参考にしながら、来年度に向けての課題を確認し、生徒が中心になって改善の方向を検討していけるよう指導する。</li> <li>・部活動に関する内規の見直しを進めたので、それに沿った効果的な活動が年間を通じて行えるよう取り組んでいく。</li> <li>・生徒会行事やボランティア活動をHPなどになるべく早く取り上げ、外部への発信に努める。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での健康・安全への取り組みについて、興味・関心の度合いが高くなっている。</li> <li>・掃除用具の対応。掃除への取り組み方法。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇新体力テスト・身体測定・健康診断の重要性を認識させるとともに、事後指導の徹底を図る。</li> <li>◇清掃と環境保護活動を推進し、美化意識と環境保全意識の高揚を図る</li> <li>◇安全点検や命を守る訓練を通して、安全・防災に対する意識を高めるとともに実践力を育成し、事故防止の徹底を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全委員会 学校安全衛生委員会</li> <li>・生徒会生活美化委員会 保健委員会</li> <li>・防災リーダー</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)・各自の能力を最大限に発揮させる指導を徹底し、前年度以上の結果を残す。(新体力テスト)</li> <li>・整然と受診し、正しい受診結果が得られるようにする。(健康診断)</li> <li>・得られた結果について分析し、その後の自身の健康の保持増進に活かす。</li> <li>(2)・適切な清掃計画により日常の清掃の徹底を図る</li> <li>・委員会活動等を通じて、身近な環境への関心を高めるとともに、省エネルギーにつとめる</li> <li>・私物を各自に与えられたスペースに収納することを徹底する。(職員の配置)</li> <li>・安全点検を大掃除時に実施し、施設・設備の整備に努める。</li> <li>・ワックスがけの工夫。</li> <li>(3)・命を守る訓練や防災についての意識調査や講話などを防災教育と位置付け、LHRやSHR時に実施する。</li> <li>・体育的諸活動時における事故防止には万全を尽くすように適切な指導助言を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)県の集計結果の順位。</li> <li>過去のデータを各自で比較・分析し、向上の度合いや、自分の長所・短所を確認させ今後の目標を設定する。</li> <li>健康診断の受診状況をチェックする。</li> <li>(2)日常の清掃活動において清掃が確実に行われているかをチェックする。</li> <li>冷暖房使用時の各クラスの温・湿度や、二酸化炭素の濃度測定状況を確認し、エアコンの正しい使用や暖房時の適正な換気がなされているかをチェックする。</li> <li>教室・廊下の私物の整頓状況で評価する。</li> <li>不具合に対して速やかに対応する。</li> <li>(3)災害時の対応や現状の知識・意識をアンケートなどで調査し訓練の参加状況と合わせて評価する。</li> <li>諸行事中に発生が予測される事故についての対応を事前に準備し周知徹底する。(体育祭の際、雷に対して注意喚起した)</li> <li>防災リーダーを中心に、防災活動大賞を受賞した。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康診断に関して、落ち着いて受診できる場所を確保できた。</li> <li>②委員会活動や担当部署の生徒・教員に環境美化担当を配置した。</li> <li>掃除用具を購入した。ワックスがけを2日で実施。</li> <li>③安全点検の結果に素早く対応した。</li> <li>④学校防災への取り組みを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新体力テスト、健康診断への取り組み姿勢について</li> <li>②委員会での活動状況の把握、校内巡視での確認</li> <li>掃除用具点</li> <li>③迅速な対応</li> <li>④取り組み姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li><input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li><input checked="" type="radio"/> A B C D</li> </ul>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新体力テスト・健康診断に関しては良好な参加、受診態度であった。</li> <li>健康・体力への意識は高まった。(測定時間が少なく、出来ない種目があった)</li> <li>○ワックスがけは2回実施。(保護者懇談前) 掃除用具の補給はうまくできた。</li> <li>○安全点検に関して迅速に対応できた。</li> <li>○工夫・体験型の「命を守る訓練」が好評であった。(非常用トイレの作成)</li> <li>○緊急時の対応に課題があり、対策が必要である。</li> </ul>	
12 次年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・職員が一体となって、学習環境の改善や、健康活動への意識・行動をさらに高めさせるよう努める。</li> <li>・防災意識をさらに高め、自ら考え、行動できるよう「命を守る訓練」や啓もう活動を工夫する。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇渉外部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A 執行委員会(年間4回)、同窓会常任理事会・理事会(年間各2回)を通じて役員の方々より、様々なご意見をいただいている。</li> <li>・ P T A 役員及び保護者や同窓会役員と学校との関係は良好である。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 家庭と学校との情報伝達を円滑にし、一層の連携を図る。</li> <li>2 P T A 役員及び保護者相互のより良い人間関係の構築に努める。</li> <li>3 創立60周年記念事業(平成31年度)の準備を計画的に進める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渉外・P T A 担当と同窓会担当に分かれ、渉外・P T A 運営は3名、同窓会運営には8名の本校O B 職員が担当している。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 家庭と学校との情報伝達を円滑にするために、P T A 会誌を発行します。</li> <li>(2) P T フォーラムをP T A 役員を中心に企画し、参加した保護者が有意義な時間を過ごすことができるよう工夫します。</li> <li>(3) P T A 役員と学校職員との協力により、P T A 総会及びP T A 執行委員会を開催します</li> <li>(4) 県高P連総会・東海高P連総会・全国高P連大会への参加を通じて、役員相互の交流を深めます。</li> <li>(5) 親村バザー(学校祭への保護者の参加)を通じて、保護者相互の交流を深めます。</li> <li>(6) 同窓会と密に連絡を取り、本校60年の歩みを振り返り、さらに躍進する岐山高校を応援する事業となるよう工夫を凝らします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校からの情報を伝えるとともに、保護者の活動の様子を紹介することができたか</li> <li>(2) 保護者は満足したか。参加人数は増えたか。</li> <li>(3) 学校と保護者相互の意思疎通が図れたか。</li> <li>(4) 参加した役員相互の親睦が深まったか。他校の取り組みを本校の活動に生かされたか。</li> <li>(5) 参加保護者が、相互に交流を深めることができたか。</li> <li>(6) さまざまな人の意見を聞きながら、理想的な記念事業となるよう計画できたか。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A 総会、P T A 執行委員会の開催</li> <li>・ P T A 会誌発行</li> <li>・ 学校祭への保護者の参加(親村バザー)</li> <li>・ P T フォーラムの開催</li> <li>・ 同窓会総会、懇親会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① P T A 役員との連携</li> <li>② 同窓会役員との連携</li> <li>③ 渉外担当者相互の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> </ul>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ P T A 総会は出席者が400名弱で安定している。。150台駐車制限も定着した。P T A 執行委員会は、概ね円滑に進めることができた。</li> <li>○ 学校祭での親村バザーは、役員から役員への連絡がうまくできており、保護者主体の行事として確立できた。</li> <li>○ 創立60周年事業を同窓会、P T A と協働して成功させることができた。</li> <li>▲ P T A 役員の選出を指名委員会で行っている。3時間ほどで全ての役員候補者を決めてしまっている。慎重な人選が求められる。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指名委員会のあり方を検討し、特に将来のP T A 会長の人選を慎重に行う。</li> <li>・ P T A 総会の日程の見直しをする。</li> <li>・ 運動会のドリンク配布を検討する。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇図書部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ウェブページの認知度が低いままである。(Eの割合昨年度 10.3% →今年度 10.0%)</li> <li>・一斉配信メールは評価・認知度ともに高い。(平均 4.7、Eは 0.6%)</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇探究学習の時間や各教科との連携を進め、蔵書の充実と利用を図ります。 ◇情報管理の徹底及び学校ウェブページやメール配信を利用した広報活動に努めます。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館運営委員会</li> <li>・各分掌・教科との連携</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 探究の時間や各教科での利用のための図書を充実させます。 (2) 情報の適正な管理を図るため、セキュリティポリシーの趣旨を周知徹底し、情報管理のための各種記録簿の適正な使用を推進します。 (3) 各分掌及び部活動顧問と連携し、発信すべき情報の収集と選定を行い、学校ウェブページのトピックスや部活動の紹介記事の充実を図ります。 (4) メール配信を適切に実施し、教育活動の広報とともに、災害時における生徒の安全確保や安全確認に備えます。	(1) 理数・探究部や「探究の時間」の担当者・各教科からの要望への対応及び新着図書の紹介が遅滞なく行われているか。 (2) 各種管理簿が適正に使用されているか。 (3) 学校ウェブページのトピックスが本校独自の行事や顕著な活動成果をカバーできているか。適切な時期に部活動の紹介記事が更新されているか。 (4) メール配信が円滑に実施できたか。訓練時の帰宅確認が支障なくできたか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の時間の指導計画に基づいて必要な時期に必要な図書をできる限り準備する。各教科からの要望についても随時対応する。</li> <li>・研修会で情報管理について周知徹底を図り、各種台帳・記録簿の使用を推進する。</li> <li>・学校ウェブページのトピックス・部活動のページ等の更新、及び一斉メール配信による緊急時や行事連絡等の情報発信をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の時間や各教科の要望を取り入れて図書を準備できているか。</li> <li>・セキュリティチェックシートの回答内容、及び記録簿の記録内容は適切であるか。</li> <li>・学校ウェブページの更新。メールによる情報発信の内容・時期が適切か。</li> </ul>	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究活動・課題研究に向けての参考図書の購入・相互貸借の利用などを進めている。</li> <li>○各種記録簿の適正な管理・使用ができている。</li> <li>▲学校ウェブページの認知度があまり高くない。高校生も見るとような工夫が必要か。</li> <li>○一斉メール配信については一定の認知度・評価を得ている。非常時の帰宅確認もほぼ安定してきた。</li> <li>○重点目標ではないが、図書館の利用は活発に進んでいる。貸出数も多く、図書委員もよく活動している。むしろもっと活躍の場を設けたい。</li> </ul>		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ウェブページは主に中学生（やその保護者）が見ると思われる。学校生活や学校の魅力が伝わるような情報提供を呼びかけ、更新を促進したい。</li> <li>・探究活動・課題研究については、今も図書に需要がある。遅い時期の要望に応える態勢も必要である。次年度は、今年度の反省・要望を踏まえ、今後も書籍・資料を調える等、適切な資料提供・体系的知識の構築に寄与したい。</li> </ul>			



2 評価する領域・分野	◇理数・探究部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者や生徒対象アンケートで「外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習の機会が多い」の質問では、平均が保護者、生徒とも 4.2、と良好な評価が例年に引き続き得られている。生徒対象アンケートの「探究の時間」が有意義である」という質問についても、平均 4.0 と前年度より向上しており、取組の目的や活動を通して身に付く力についての理解が深まってきたと考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇科学的な視点で問題を発見し解決していける力を培い、他者と協働し粘り強く取り組む姿勢を養い、グローバル化する社会に貢献し、活躍できる人材を育成します。 ◇外部機関と連携した教育活動を行い、キャリア教育や理数教育を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・理数・探究部 ・学年主任、探究活動学年担当を含む理数・探究部会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1)「探究の時間」などを活用した探究的な活動を企画・運営し、主体的・協働的な取組で課題解決を目指し、結果をまとめ発表することで論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。</p> <p>(2)理数科対象の野外実習(フィールドワーク)や課題研究等で論文作成や発表を通して、実験・観察技能や科学的思考力、プレゼンテーション能力を養います。</p> <p>(3)課外の時間を活用した研究者との対談や、希望者を対象とした特別講座を企画・実施し、その結果をレポートにまとめることで、論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。</p> <p>(4)全校生徒を対象に、先端研究者の講演会、企業や研究機関への訪問、参加体験型研修を企画・実施します。</p> <p>(5)外部機関と連携して視野や価値観を広げ、自己の将来や社会との関わりを考える取組を実施します。</p> <p>(6)自然科学系部活動を中心に、大学や企業の研究者と連携した研究活動、岐阜市と連携した中学生対象の講座など理数教育の拠点校としての役割を果たします。</p>	<p>(1)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度末に評価テストを実施します。</p> <p>(2)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度当初と年度末に評価テストと保護者アンケートを実施します。</p> <p>(3)取組ごとに参加者アンケートや自己評価を実施します。</p> <p>(4)参加者アンケート、自己評価、講師による評価を受けます。</p> <p>(5)参加者アンケート、自己評価、担当者による到達度評価を行います。</p> <p>(6)研究成果をまとめ、各種コンクールや全国規模の大会へ積極的に参加し、外部評価を受けます。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>「探究の時間」に外部講師を招聘し、論理的思考力や表現力等を養う講座を実施した。</li> <li>理数科1年野外実習、3年課題研究を実施した。</li> <li>講演会、岐阜大学研究室訪問、岐阜大学連携事業を企画・実施した。</li> <li>岐阜市と連携して中学生を受け入れ、岐阜科学塾を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価のうち満足度(五段階評価) 野外実習3.91、課題研究4.08 POP講座4.41、看護講座5.00 Art講座4.90、岐大研究室4.59 60周年記念講演4.30、</li> <li>岐阜科学塾 参加中学生22名 科学作品展 優秀賞1, 入選6</li> </ul>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
11 成果・課題	<p>○生徒の多様な興味・関心を高めることができるよう多方面の講師を招いた講座を実施することができ、参加生徒の満足度も高かった。また、今年度も中学校との連携講座を多数実施した。</p> <p>○希望者対象の講座では、事後評価における満足度等はかなり高い。</p> <p>▲普通科2年探究活動では、多くの職員が担当するが、調べ学習からさらに深化した探究活動とするための手立てを確立し、共通理解を図る必要がある。</p>	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒対象だけでなく、職員対象にも理数・探究部の活動を積極的に広報し、活動の「見える化」を重点に取り組む。特に職員を巻き込んで活動を行い、生徒にも参加の輪を広げていきたい。</li> <li>目指す生徒の姿をもとに、2年「探究活動」を再構築する。本校で育てたい生徒の姿を明確化し、単元でつきたい力を構造化し整理することで、職員、生徒の共通理解を図り、全校体制で取り組む。</li> </ul>	

2 評価する領域・分野	◇1年学年会		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身につける期間で戸惑うこともあったが、現在は見通しを持ち、学校生活を有意義に送っている。</li> <li>・授業の水準や進度、宿題の量や質に慣れてきたが、時折提出物等の滞りがある。</li> <li>・課外活動にも積極的に参加できるようになってきた。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇何事にも前向きに捉え、実生活や実社会に活かせる資質や能力の育成に取り組めます。 ◇学習活動中心の生活習慣を身につけさせるとともに、良識あるモバイル機器の扱い方について指導します。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携</li> <li>・保護者及び他学年との共通理解</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)集団における自身の役割や立場を理解し、責任ある行動が取れるように指導します。 (2)課外活動に意欲的かつ積極的に取り組めるよう、特別活動部と連携して指導します。 (3)礼儀正しく、明るく活力に溢れた学校の雰囲気づくりを目指して生徒指導部と連携し指導します。 (4)初期指導期間を有効に活用し、授業と家庭学習を中心とした学習習慣の確立について、学年団及び教科担任と連携して指導します。 (5)自身の将来像を考えさせる機会を定期的に設け、進路実現に向けた生活習慣の確立を目指して進路指導部と連携して指導します。 (6)モバイル機器の適正な使用について、生徒指導部及び家庭と連携して指導します。	(1)年度末の自己評価や反省、担当職員による評価をもとに、達成状況を判断します。 (2)日常生活におけるクラスの様子や、岐山祭、球技大会への取り組み状況を評価します。 (3)来客者からの印象や評価を参考にします。 (4)諸調査を行い、学習に対する意識や意欲、学習時間により評価します。 (5)課題の提出状況や、外部模試の結果などにより評価します。 (6)日常生活における使用状況を観察するとともに、保護者懇談会等で家庭での様子を聞き取り評価します。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題テストや定期テスト、進研模試の結果等进行分析・理解させ、毎日の学習習慣の大切さを考えさせる。</li> <li>・学年の共通理解のもと、担任・副担任による身だしなみ検査を実施し、指導する。</li> <li>・集会や探究の時間、HR活動の時間、担任との面談等を通して、学習や学校行事、授業、部活動の在り方、目的、意義を考えさせ、自分自身を振り返らせることで、改善を図る。</li> <li>・生徒の状況を踏まえて対応し、充実した高校生活になるよう学年団でサポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種テストの結果等を踏まえて、学習到達度を分析し、学習指導の成果を「見える化」する。</li> <li>・探究の時間やリサーチツアー等への参加希望状況によって、積極性を評価する。</li> <li>・各種行事後のアンケートによって、個別行事の充実度と、その行事の啓発度を検証する。</li> </ul>	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>  A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>  A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
11 成果	○1学年では学校生活に慣れ、3年間の見通しをもち、高校生活のリズムをつくりあげることが大切なことである。現在は学校生活全般において落ち着いた態度で向き合うことが出来ている。モバイル機器についても日々の啓発活動により、マナーを意識した使用の仕方に気を配ることができた。 ▲自分自身の進路を意識した上で、継続的な学習習慣を身につけさせることの大切さを理解させる。そのためには自ら課題を見つけ、解決に取り組む姿勢をより育む取り組みが大切である。		総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種テストを節目とし、結果を振り返り自分自身の課題を確認することで、学習意欲向上への有効な意識づけとするとともに、自身の将来像を思い描く機会を増やし、より積極的に取り組めるようHRや集会等で啓発を続けていく。</li> </ul>		

2	評価する領域・分野	◇2年学年会		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に対するアンケート」からは、生徒の授業に対する評価はおおむね高く、信頼されていると分析できる。</li> <li>・模試の結果から、生徒たちが着実に力をつけていることが伺われるが、下位層の多さが課題であり、日常の宿題や週末課題等を通して、着実に力を付けていくことが必要である。</li> </ul>		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的学習習慣・基本的生活習慣を質的に向上させ、誠実に物事に取り組む心を育てる。 ◇自ら考え、行動できる主体性を育てる。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携</li> <li>・保護者及び他学年との共通理解</li> </ul>		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)	学年集会やLHRで身だしなみ指導、学習に向かう姿勢についての指導を行い、進路指導部・生徒指導部とも連携し、生徒の規範意識を高め、基本的学習習慣・基本的生活習慣の質的向上を目指す。	(1) 状況を観察し、定期的な調査も行いつつ、必要な指導を行い、状況の変化を踏まえて判断・評価する。		
(2)	課題・宿題に対して粘り強く考え、分からないところは、自ら調べたり質問したりして、「誠実に探究する習慣」を育てる。	(2) 提出物の状況や学習・探究活動への取り組みを評価する。		
(3)	係や清掃、ボランティア、委員会活動、学年行事等を通じ、公共性や協調性、物事に誠実に取り組む心を養う。	(3) 行事に対して誠実な心や思いやりの心を持って取り組んでいるかを評価する。		
(4)	文化祭や球技大会、修学旅行等の行事に取り組む中で、個々の存在を尊重しつつ、仲間を思いやる心を養う。	(4) 生徒との懇談やアンケート調査により、達成感と成就感を判断する。		
(5)	大学情報、学部・学科情報の収集に努めさせ、各自が自分に適切な大学を考察する。	(5) 進路情報を生徒に与えつつ、懇談を通じて情報交換し、進路目標と実際の取り組みが適切か判断する。		
(6)	行事の中で、生徒に企画・立案・運営を行わせることで、目標や目的を明確にもち、達成に向けて何をすべきかを自ら考えて行動できる生徒を養う。	(6) それぞれの活動や行事に対して、生徒が自ら考え工夫する方向で活動させ、実践状況を評価する。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業前まで定期的に学習時間調べを実施し、学習時間と課題テストや進研模試の結果の相関性を調べ、学習習慣の大切さを考えさせる。</li> <li>・月曜日の身だしなみ検査を、学年の共通理解のもと厳しく行い、適切に指導している。</li> <li>・生徒の状況を踏まえて対応し、充実した高校生活になるよう学年団でサポートする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の学習時間を、継続的に記録し、各種テストによる学習到達度との関連を調べ、学習指導に生かすことができたか。</li> <li>・身だしなみ及び環境整備に対して学年全体で指導にあたることができた。</li> <li>・学校生活に適応できていない生徒も一部おり、各々のケースに応じた対応ができた。</li> </ul>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D  A <input checked="" type="checkbox"/> B C D  <input checked="" type="checkbox"/> A B C D	
11	成果・課題	○普段から規律を意識した生活指導を行うことで、良い生活習慣の定着ができるようになったが、いまだ時間にルーズな生徒がいるのも否めない。 ○教務部、生徒指導部（教育相談）等が学年と連携しながら様々なケースへ対応することができた。今後も個々への対応が、学年団を中心に他との連携を進めていく。 ▲主体的に行動し、自らの課題を見つけ解決しようとする心の育成までには至っておらず、さらなる研鑽が必要である。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生としての自覚をもたせるとともに岐山高生としてのレベルのさらに高める。教師が生徒とコミュニケーションを密にとることで信頼関係を深めつつ、家庭とも連携し、生徒をより大きく育成する。</li> <li>・文化祭等の行事を通して、生徒が自ら企画・運営に携わり、主体的に動く場を設け、クラスの絆、友情を構築し、学年・学校への帰属意識と進路意識を高め、学習意欲と行動力の向上を目指す。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇3年学年会		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対するアンケートより、概ね授業に対する意欲、集中力があり、意識は高く、良好な姿勢で臨んでいる。</li> <li>・教科によっては積極性にやや欠ける部分や、課題に対する取組が甘い部分がある。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人の進路目標の実現と社会に貢献できる人材の育成に努めます。 ◇生命を尊重する心を育み、人権尊重の意識を醸成します。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、教務部、生徒指導部、進路指導部、特活部との連携</li> <li>・各教科会</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 進路実現に向けて確かな学力を身に付けられるよう学習指導を強化します。 (2) 校外模試や朝テスト課題実力テスト等を通じて、生徒個々の能力・適性を的確に把握・分析し、生徒の進路目標の実現に努めます。 (3) 生徒の選択肢の拡大や視野を広げるため、適切な情報収集と情報提供に努めます。 (4) あらゆる機会を通じて生徒と接する時間を増やし、生徒理解に努め悩みや不安の早期発見に心掛けるとともに、基本的な生活習慣を身に付けさせます。 (5) 職員全体でいじめは絶対に許さないという強い姿勢で臨み、生徒に対して公正かつ公平な態度を示し、風通しの良い、個を尊重する心を育成します。	(1) 校内でのテスト、外部模試の結果により評価します。 (2) 生徒個人が幅広い視野のもとに進路設計ができ、能力が伸長し、自らが納得いく進路実現ができたか判断します。 (3) 探求活動などを通して、自分の考えを適切に論述、発表、討論するなどの能力を身に付けることができているか判断します。 (4) 二者懇談、保護者懇談、教育相談等で情報を共有できたかで評価します。 (5) 授業規律の確立、場に応じた挨拶、端正な身だしなみを校内、保護者、関係機関の連携により、身に付けているか判断します。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や懇談、休み時間等を通して、教師と生徒の垣根が低く、何でも話せる関係の構築に努めた。</li> <li>・スタディーサポート、模試の結果を生徒に提示し、進路への関心を高め、意識を持たせる指導に努めた。</li> <li>・探究活動を通して、自己の進路に向き合い、主体的に活動する場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ等概ね適切な態度、行動をとることができた。</li> <li>・得られた情報をもとに、積極的かつ継続的に学習に取り組むことができた。</li> <li>・自己の進路への関心が深まり、主体的に行動する生徒が増えた。</li> </ul>	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人を思いやる心や感謝の気持ちが育ち、周りを見て場面に応じた行動がとれ、責任感や人権意識が高まってきた。</li> <li>○自らの将来に繋がる大学を模索し、情報収集し、担任からのアドバイスに耳を傾け、また相談する姿が見られた。</li> <li>▲進路への意識は高いものの、学習時間が今一つで、受験勉強への甘さが見られ、模試の結果に満足できない生徒がいる。</li> </ul>		総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験指導において、全体指導から個別指導への転換が要求される時期であるので、面談等を繰り返しながら一人ひとりの把握に努める。模擬試験を有効に活用し、個々の生徒に合った適切な指導を行う。進路指導部と連携し、生徒保護者が納得できるような進路選択ができるように大学情報や入試情報を生徒に提供し、進路実現につなげる。安易に流される進路決定ではなく、最後まで諦めない受験指導を徹底する。</li> </ul>			

## Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月17日

### 【意見・要望・評価等】

#### (1) テーマ 本日の探究活動発表会を参観して

- 意見1 探究のテーマ設定は難しいが、どのようにしているのか。探究発表会はこれで何年間継続しているのか。過去のテーマを発展させる内容があってもよいと思われる。  
→教員からの発信はしているが、生徒が独自にテーマを提案している例もある。探究発表会は今年で5年目になる。岐阜大学と連携したテーマもみられる。
- 意見2 アルバイトなどのテーマがみられたが、受動的でなく自分で起業する、などのテーマがあってもよいと思った。  
→多様な発想や意見をもつことができるよう、まずはさまざまな情報を生徒に発信していく必要がある。
- 意見3 ベンチャービジネスをすすめる上で、学生を育てる機会が求められている。教育の根本的な考え方を変えていくことも時代背景として求められつつある。
- 意見4 課題をデータ化して発表している姿はよいと感じた。下級生に良い見本にもなると思う。声の出し方や班内での連携などで工夫をしている班もみられた。聴講者の雑談が若干みられたので、雑談を減らす方策については改善の余地があると考えます。

#### (2) テーマ 教育活動全般について

- 意見1 理数科の人気薄は、全国的にみられる傾向なのか。  
→理数離れという風潮が近年みられる、学びからの逃避という印象を個人的には受ける。国としても積極的に理数教育に力を入れていく必要があると考える。文系でも理系でも科学的なものの見方は大きな力となると思う。そのためにも理数教育を本校では重要視していきたい。
- 意見2 普通科、理数科を変更することは可能であるのか。  
→科の変更はできないが、理数科から理数に直結しない進路を描くことはできる。大切なことは自分が何をしたいのかである。ただ、文理を決める時期は一昔前と比べると、早まってきている。
- 意見3 文理の選択は、外部からの意見や誘導も大きく影響する。  
→これからは文理を融合した総合的な学力が求められる。
- 意見4 先生は理数科＝理系の進路という意識は強いのか。  
→強く意識はしていない。生徒の意識が第一。
- 意見5 ホワイトボードに変わった影響はどうか。  
→より良い授業を目指して、教科や分野に応じて創意工夫をして取り組んでいる。
- 意見6 運動部は地域との交流はないのか。地域への挨拶などは特に運動部はもっと徹底した方がよいと思う。
- 意見7 野球部の生徒はよく挨拶をしてくれる。なお、いくつかの部活動で学校周辺をランニングしている姿を見るが、暗い時間帯の狭い道路の通行は危険を感じることもあるので注意願いたい。
- 意見8 土曜講座は部活優先だと出席しにくい、という声も聞く。実際はどうか。  
→土曜は補習、部活は日曜と完全にすみ分けすることは困難でもあり、難しい問題ではある。

- 意見9 教員が指導時間過多になるとよくないので働き方改革が叫ばれてはいるが、削減だけが大事とも思わず、難しい問題ではないか。  
→難しい問題だが、法的に求められる休日も確保するよう取り組んではいる。
- 意見10 新型肺炎が学校で発症した場合どのように対応する予定であるか。  
→県からの要請やシミュレーションはまだ無いが（2/17現在）、仮に発症した生徒が出た場合には学校閉鎖なども視野に入れて対応を検討する必要があると考える。